

かっていたり、疑いがあったりする方です。患者さんの乳がんが初期であればあるほど、治療の選択肢は広がりますし、体への負担も減らせます。通常の暮らしに戻り職場復帰することも可能でしょう。乳がんへの最大の対策は、早期発見なのです。

市区町村では40歳以上の女性には2年に1回検診がありますし、会社の健康診断などでも受診の機会は増えています。もう一度、お伝えします。乳がんは数少ない“自分で見つけれられるがん”であり、早期発見と治療で命を守ることができるのです。くれぐれも月に1度の自己チェック&2年に1度の乳がん検診をお忘れなく。そして、ご自身で気をつけるだけでなく、ぜひ家族やお友達にも伝えてください。みんなで乳がんを乗り越えていきましょう。

がん・感染症センター 都立駒込病院

〒113-8677 東京都文京区本駒込3-18-22
Tel : 03-3823-2101 (代) Web: <http://www.cick.jp>

【交通機関】

■JR山手・京浜東北線 田端駅下車
徒歩 約15分
都バス 約10分
「東京駅丸の内北口」行 「駒込病院前」下車
「駒込病院」行 「駒込病院」終点
(病院構内までバスが入ります。)

■東京メトロ南北線 本駒込駅下車
徒歩 約10分

当院は、紹介・予約制です(緊急の場合を除く)。外来診療は、事前に下記までご連絡ください。

外来予約専用電話

03-3823-4890 よくを 月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:00

あなたの未来を強くする



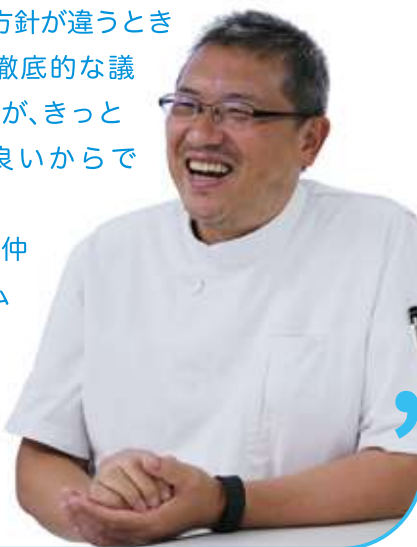
住友生命

【住友生命保険相互会社】
本社 〒540-8512 大阪市中央区城見1-4-35
東京本社 〒104-8430 東京都中央区築地7-18-24
(ホームページ) <http://www.sumitomolife.co.jp>
住友生命 検索
生命保険のお手続きやご契約に関するご照会
スミセイコールセンター 0120-307506

ひとことメッセージ

当院の乳腺外科は常勤医6人、非常勤医2人と大所帯のチームですが、なんと男性は僕一人。人が多いのにみんなとても仲が良いのが、うちのチームの一番の売りです。みんな得意な分野が別々なので各自得意分野を頑張ることで高いレベルのチーム作りに貢献しています。治療方針が違ったりなど、時には徹底的な議論がされますが、きっとこれも仲が良いからでしょうね。

良い医療は仲の良いチームからしか生まれてこないのかもしれない。



住友生命は東京都と【ワイドコラボ協定】を締結しています

Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious diseases Center Komagome Hospital
がん・感染症センター 都立駒込病院情報誌

Robin Vol.1

「乳がん」は早期発見が肝心です。 月に1度の自己チェック&2年に1度の乳がん検診を



Profile

有賀 智之

Aruga Tomoyuki

東京都立駒込病院
乳腺外科医長

専門

乳腺疾患、遺伝性腫瘍



乳がんは、数少ない“自分で見つけれられるがん”です。世界中で研究が進み、特効薬も開発されています。早期に発見して適切な治療を行えば、命を落とさずに済む病なのです。乳がん検診の重要性和治療の最前線をご紹介します。

毎年新たに7万5000人が 乳がんになっています

皆さんのまわりに「乳がん検診」を受けたことがない女性はいませんか？ 成人女性が最もなりやすいがん、そして命に関わる身近な病が「乳がん」です。日本では毎年約7万5000人が新たに乳がんになっていて、罹患(りかん)率は年を追うごとに上がっています。

乳がんは世界共通の悩みですが、世界と日本との

大きな違いは「検診受診率」です。欧米の乳がん検診の受診率が80%を越えているのに対し、なんと日本ではわずか30～35%。10人に6～7人は乳がん検診を受けていないということになります。

乳がんは数少ない“自分で見つけれられるがん”であり、早期発見が可能な病です。早期に発見してしっかり治療することで命を落とさずに済むのです。月に1度、鏡の前で自分の乳房を観察して、触ってみてください。そして、2年に1度は乳がん検診に行ってください。

マンモグラフィのほか エコーやMRI検査もあります

現在、乳がん検診の主流は「マンモグラフィ」という検査です。乳房を上下・左右から押しつぶして行うため、人によっては痛みを伴うことがあります。

この検査でいったい何を見ているかというと、乳がんが存在していると発生する「腫瘤(しゅりゅう)＝しこり」、「石灰化(せっかいか)」また、乳がんによっておこる「ひきつれ」などがないかをチェックしています。石灰化はしこりなどができる前の小さな乳がんでも発生するため、ごく初期段階のがんも発見できます。

撮影したマンモグラフィの画像では、脂肪部分は黒く、石灰化は白く映し出されます。しかし、じつは乳房にある「乳腺(にゅうせん)」も画像に白く映るため、乳腺量が多い人の画像は全体が白っぽくなってしまい、石灰化が見つけづらいという難点があります。乳腺の量には個人差があり、若い人は乳腺量が多い傾向があります。乳腺の影響などで、もしマンモグラフィ検査の画像ではよくわからなかったり、疑いがあったりした場合は、「超音波(エコー)」という検査方法があります。

超音波検査は、妊婦さんのお腹にあてて胎児のようすを見る時にも使う検査です。マンモグラフィのような静止画像でチェックするのではなく、その場で音波をあてながらチェックしていくため、マンモグラフィに比べて客観性に乏しいという難点がありますが、痛みがないこと、乳腺量に影響を受けにくいことが利点です。

このほかにも、乳房を輪切りのようにスキャンした画像でがんの有無を確認できる「MRI検査」などもあります。近年はさまざまな検査方法で早期発見が可能になっています。

乳がん治療の最前線は 「がんタイプの細分化」と 「遺伝性乳がんの対策」へ

乳がんが早期発見できた場合、効果的な治療をするために、まずどうするかというと、がん細胞がどのよう

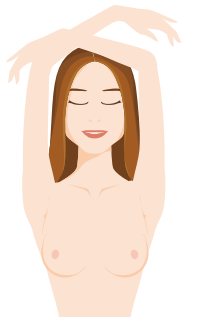
【乳がんセルフチェック】

乳がんの多くは「しこり」で発見されます。

早期発見するためには、その特徴をよく把握しておくことが大切です。自分で観察したりふれたりすることによって発見できる可能性が高いがんですので、以下を参考に、ご自身でチェックしてみましょう。

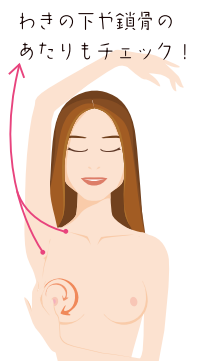
乳房を見てチェック！

鏡の前で腕を上下させたり、頭の後ろで手を組んだり、手を腰に当てて上体がかがませるなど、いろいろな姿勢をとって、乳房の変化を確認めます。



乳房に触れてチェック！

調べる乳房側の腕を上げ、もう一方の手で乳頭周辺から円を描くようにして、指の腹でゆっくり調べていきます。入浴時、手に石鹸をつけて触れたり、布団の上で仰向けに寝て触れると、「しこり」などの変化がわかりやすくなります。



わきの下や鎖骨のあたりもチェック！

自己検診のベストタイミング

閉経前なら

月経が始まって1週間後を目安に。

閉経後なら

月に1度、覚えやすい日を決めて。

チェックポイント

- ☐ **乳がんの「しこり」**はないか
- ☐ **乳房のへこみ**など皮膚表面の変化はないか
- ☐ **乳頭からの分泌物**はないか
- ☐ **乳首のただれ**はないか
- ☐ **脇の下にしこり**はないか



なタイプなのかを見極めていきます。少し専門的になりますが、例えば、そのがん細胞が「女性ホルモンを餌にしているかどうか」「HER2(ハーツー)というタンパク質を持っているかどうか」などで分類をしていきます。数あるがんのなかでも、とくに乳がんはタイプの細分化診断が可能ながんです。そして前述の通り、乳がんは世界共通の問題であるため、各国で研究が進んでいて、タイプの細分化と同時にそれぞれのタイプへの特効薬が開発されています。

乳がんは、早期発見→がん細胞タイプの見極め→特効薬治療、という流れで命を落とさずに済む病になってきているのです。

また、もうひとつの世界的な流れとしては、遺伝性乳がんへの対策が進んでいることが挙げられます。近年、乳がんの約5%が遺伝性であることがわかり、遺伝子検査によってその人が、ある特定の遺伝子変異を持っているか否かで、将来の乳がん発症リスクがわかるようになりました。この遺伝性乳がんの特効薬も誕生しています。さらには、発症する前に乳房を切除するというリスク回避手術も行われるようになりました。

日本ではまだ遺伝子検査自体が保険適用外であり、医療現場でもリスク回避手術の受け入れ体制が十分ではありません。しかし、遺伝性がんのリスクのある方にとっては、リスク回避手術もひとつの選択肢として挙げるができるでしょう。

培った専門知識と長年の経験で ひとり一人に合った、がん治療を

駒込病院は、われわれ乳腺外科はもちろんのこと、がん精通している医師や看護師が多いのが特長です。神経科の医師、薬剤師、事務スタッフに至るまで、これまで多くのがん患者さんに接してきているため、知識と経験が豊富でそれぞれの立場から幅広いアドバイスができます。副作用のひとつである“むくみ”に対応する専門医や、資格をもったがん専門の専門看護師もいます。ペインクリニックや緩和ケアとの連携、日本屈指の乳房再建手術やアピアランスケアも含めたQOL(生活の質)向上の取組も受けられることなども治療に臨む際の安心材料になるのではないのでしょうか。

また、ちょっとした不安や悩みごとでも気軽に相談できる「患者サポートセンター」も今春オープンしました。看護外来もありますし、通院でがんの治療に臨む患者さんも増えています。深い専門知識と培ってきた知識を活かして、病院全体でひとり一人の患者さんに合ったがん治療に取り組んでいきたいと考えています。

早期発見が命を守ります 2年に1度の検診をお忘れなく

駒込病院にくる患者さんは、すでに乳がんが見つ